

(仮訳)

プレス・リリース

2016年6月22日

金融安定理事会

**金融安定理事会が
「資産運用業の活動からの構造的な脆弱性に対応する政策提言案」
を公表**

金融安定理事会（FSB）は本日「資産運用業の活動からの構造的な脆弱性に対応する政策提言案」を公表し、市中協議に付した。文書は潜在的に金融安定リスクをもたらさうる資産運用業の活動からの下記の構造的な脆弱性に対応する14の政策提言案を提示している。

- (i) ファンドの投資とファンドユニットの解約に係る契約条件の間の流動性ミスマッチ
- (ii) 投資ファンドにおけるレバレッジ
- (iii) オペレーショナルリスクおよびストレス時の投資契約の移管に係る課題
- (iv) 資産運用会社とファンドによる証券貸借取引業務

近年の資産運用業の活動の拡大等を背景とした当該活動に関する構造的な脆弱性からの潜在的な金融安定性リスクを把握し、対処するためFSBは2015年3月に作業を開始した。資産運用業の活動は、投資家に日次の解約を提供するオープンエンド型ファンド等を通して、過去10年間で著しく増加した。このような成長は、取引があまり活発ではない市場を含む特定の資産クラスに対する投資の増加も伴っている。

上記4つの構造的な脆弱性の中で、(i) 流動性のミスマッチと (ii) レバレッジが重要な脆弱性であると考えられる。流動性ミスマッチの提言はオープンエンド型ファンド（ETF（上場投資信託）を含むマネー・マーケット・ファンドを除く公募および私募）に焦点を当てる。レバレッジ（借入れやデリバティブによって生じうる）はレバレッジを使用するあらゆるタイプのファンドへの適用が意図されている。一方、オペレーショナルリスクに係る提言は、大きくて複雑かつ／あるいは重要なサービスを提供する資産運用業者に焦点を当て、証券貸借取引業務に係る提言は資産運用業者のエージェントレンディング業務（すなわち当該業者が実質的所有者ではない有価証券の貸付け）、特に顧客への

補償の提供に焦点を当てる。

これらの提言は特定されたリスクを効果的に発見し対応するためのツールとデータを当局と資産運用業者に提供するように設計されている。本件と関連して、証券監督者国際機構（IOSCO）が、優先的に対応すべき資産運用業界に関するデータギャップに係るイニシアティブについて本日声明を公表する。FSB は 2016 年末までに政策提言を最終化する予定であり、その多くが IOSCO によって具体化される。

FSB は、本市中協議文書への意見を募集する。コメントは 2016 年 9 月 21 日を締切とし、fsb@fsb.org へのメールか、FSB 事務局への郵送で受付ける。全てのコメントは、投稿者から非公表を要求されない限り、FSB ウェブサイトに公表する予定である。

マーク・カーニーFSB 議長は、「市場型金融の成長が信用と投資の基盤を多様化した。その重要性の高まりを考慮すると、回復力がある資産運用業が、強く、持続可能で、バランスがとれた成長をファイナンスするために肝要である。これらの政策提言はすべての FSB メンバー国の資産運用業者が全体的な便益のためにこうした役割を満たし続けることができることを確保できるよう意図されている。」と述べた。

FSB 規制監督上の協調に係る常設委員会のダニエル・タルー口議長は、「提案された政策提言は、金融市場における将来のストレス時における資産運用業者とファンドの回復力を強化するよう意図されている。これら政策提言はまた、当局が同一または異なる法域間における資産運用業の活動に関する傾向やリスクについての理解を深めることに役立つだろう。」と述べた。